

子どもと女性の
健康相談室

75



福島医大産科婦人科学学講座教授

添田 周氏

子宮頸(けい)がんは、子宮の入り口(子宮頸部)に発生する「がん」です。

わが国では一年間に約一万人が罹患(りかん)し、約二千八百人が亡くなります。直近の二十年間で、二十〜五十歳の生殖年齢女性での罹患率と死亡率が上昇しており、マザークイーンという別名で呼ばれ問題となっています。

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因です。HPVは百種類以上あり番号で分類されています。子宮頸部にはHPVが原因の良性腫瘍であるいぼ状の病変(尖圭(せんけい))

コンジローマも発生します。尖圭コンジローマの原因となるHPVの型は6、11で低リスクHPV、子宮頸がんの原因となるHPVの型は16、18

する方もいます。子宮頸がんの原因がHPVであることから、HPV感染を回避することで、子宮頸がんの予防が可能です。また、「がん」にな

しわが国では、このHPV予防ワクチンは二〇一三年六月から積極的接種を奨励(しょうれい)し、小学校六年生から高校一年生までが中止されていきました。HPV予

ける本人への説明が最も重要です。自治体からの案内や、厚生労働省のホームページからHPV予防ワクチンに関する情報が入手可能ですので、HPV予防ワクチン接種について家族で話し合うようにしてください。

2つの予防法理解を

など(十五種類)で高リスクHPVと言います。HPVに感染しても自分の免疫力(抵抗力)で排除されますが、持続的に感染する方の中には五

るまで時間がかかるため、前がん病変のうち早期発見し治療することも可能です。

防ワクチン接種後に起こった身体への諸症状がその原因でしたが、さまざまな研究がなされ、ワクチンとの因果関係は証明されませんでした。本年四月からHPV予防ワクチンの積極的接種勧奨が再開されています。

して子宮頸がん検診は重要です。生命に関わるほど進行した子宮頸がんになった方の多くはがん検診未受診の方です。HPV予防ワクチンと子宮頸がん検診、子宮頸がんは二つの予防方法があることを知っておいてください。

分除されませんが、持続的に感染する方の中には五

HPV予防ワクチンが使用実績からHPV予防ワクチンは子宮頸がんの発生も減少させることがわかっています。しか

種については、接種を受

次回7月18日掲載

子宮頸がん